

進路のしおり



目次

家庭での取り組み	P 2 ~ 5
学校での取り組み	P 6 ~ 9
施設紹介・トピックス	P 10
施設一覧	P 11
進路状況・あとなぎ	P 12



特集

**「いま」を
ゆたかに**

21世紀を迎えて、ますます地域福祉の重要性が問われています。そのようななか、在学中の取り組みとして卒業後の生活を考え、福祉サービスなどをたくさん利用するとともにさまざまな社会体験を増やし「生きる力」を培うことが大切なのではないでしょうか。

そこで今回は『“いま”をゆたかに』をテーマに、家庭や学校で取り組んでいることなどをまとめました。この特集を参考に、卒業後の生活を考えていただければと思います。

…家庭でのとくみ…

ボランティアグループを利用することで、電車に乗ることが楽しくなった様子やインターネットでさまざまな関係を広げたり、生活サポート事業などを利用して将来設計を立てたりしている様子を紹介します。それ以外にご家庭で考えられる地域との関わりとしては、子供会への参加や学童保育の利用などを通じて同世代との関わりを深めたり、福祉まつりや旅行、ワークキャンプなどへの参加も考えられるのではないのでしょうか。

遊ぶ
電車
外出

休日を楽しむ

子どもは、障害の有無に関係なく成長します。当然わが子も体が大きくなって介助が容易でなくなり、だんだん休日の外出が少なくなりましたが、中学部に入った頃、「越谷プロジェクト」を紹介されました。

■「越谷プロジェクト」

肢体に障害のある子と同年代の青少年との交流や、障害者の社会参加の支援を目的に活動している団体で、活動は月2回、第2・4日曜日です。また、年1回程度で一泊旅行もあります。参加するには予約が必要ですが、登録などはなく自由に参加でき、集合時間や集合場所に無理がなく、お弁当も用意なくていいのでとても気楽です。

■初めての電車

初めて参加したときは、混んでいる電車やホームと電車のすき間など不安があったのですが、介助の人たちの手際の良さや車椅子の扱いもうまくてびっくり。その上団体行動しているのに一人一人のペースを大事にしているので安心して任せられました。

■楽しい活動

子どもも最初の頃は、昼食を食べたあと疲れて眠ってしまうことが多かったのですが、今では慣れてきて眠ることもなく楽しそうです。兄弟も一緒に参加できいろいろなところへ行けるので日曜日のイライラもなくなり楽しく過ごしています。

(越谷養護 高1 鈴木優希さんのお母さん)

このことがきっかけで、親子で電車に乗ることが苦にならなくなり、積極的に外に出かけるようになりました。多くの人と出会い、いろいろな体験を通して親子で成長することができたと思います。

「越谷プロジェクト」
連絡先 TEL 0489-79-1148 (石上)
0489-65-4675 (岡田)



僕が家で遊んでいること

大宮市立養護 高1 山中一臣

■パソコンとの出会い

中学1年生の時に、学校でパソコンを練習したので家でも購入しました。最初は主に画像処理をやっていましたが、インターネットもやりたいと思い、プロバイダと契約しました。やり始めた頃は見たいページをすぐには探せませんでした。今ではすぐに検索することができます。

最近好きなアーティストのホームページを見たり、e-mailで卒業生とやりとりしています。文章を送信するだけでなく画像を添付したりもしています。他にはデジカメで撮った画像処理などもします。

■ゲームやCD、コンサート

TVゲームのプレイステーションもやります。得意なジャンルは謎解きものですが、今はドラゴンクエスト7にはまっています。

他にCDを聞いています。好きなグループはGLAYです。2年前からファンになり、去年幕張メッセで行われた20万人ライブにも参加しました。コンサートに行く前までは、車椅子でも参加できるのか不安がありました。実際に行ってみたら僕以外にも車椅子の子がたくさんいました。中には僕よりも障害の重い子もいました。

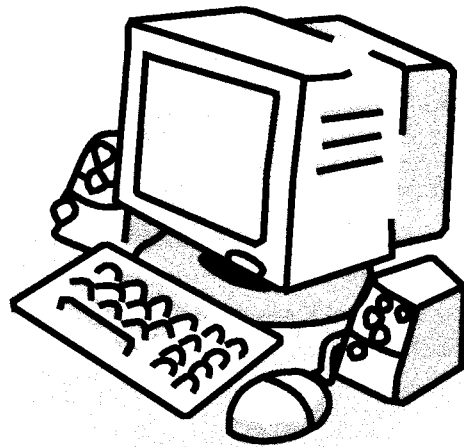
このコンサートをきっかけに電車などを利用すれば不自由なく出掛けられることがわかりました。今ではなんの不安もありません。大事だと思うのは、やってみようというチャレンジ精神だと思います。

機会があればまたGLAYのコンサートに行きたいです。

■インターネットは便利

この中で自分がやってみて最も、感心したのはインターネットです。GLAYのコンサートのときも幕張メッセまで行くにはどうしたらいいかと悩んでいました。本などを見てもわかりにくいのに、インターネットで幕張メッセのホームページにアクセスして行き方を調べると、あっという間にわかってしまうということに驚き、感心しました。これからも、どこかへ出掛ける時に行き方がわからなくなったらインターネットを使って調べようと思います。

パソコンは便利で楽しく、僕にとってなくてはならない存在になっています。



フ
ラ
ク
リ
ト
フ
ァ
ン
タ
イ
ム
G
L
A
Y

インターネットを利用して — 秩父養護 小6 小林裕莉、麻悠さんの場合 —

小林さん姉妹は電子メールの交換やインターネットを活用しています。ゆっくりですが自分で機械を操作して、メールを送ったり読むことを楽しみにしています。

またインターネットでホームページに出ている詩や歌の情報を見て、詩を覚えたり歌ったりしています。国際子供図書館のホームページにアクセスし、知りたい本を検索したり絵本展の紹介などを知りました。2人とも将来は絵本を作りたいという夢があり、いろいろな情報を集めて絵本作りに役立てています。このようにしてパソコンの楽しみもより一層広がっています。

(文責 秩父養護 野口)

在宅支援サービスを利用して — 川島ひばりが丘養護 小4 三浦諒さんの場合 —

入浴介助
留守番
買い物
掃除

■在宅支援グループ「暖手(だんて)」

「暖手」はいわば全ての人のための応援団。障害児・者の他、老人介護の支援も行っているグループで、家庭のニーズによって留守番、買い物、掃除…様々なサービスを提供してくれ、三浦さんは月、水、金の週3日、午後3:30~4:00という契約で入浴介助サービスを受けています。車椅子やベッドへの移動の時はお母さんと一緒に、その他は全部やってくれるということです。

「支援日誌」には楽しいひとときが記録されています。「お風呂に入ってさっぱりして気持ちよさそうに笑ってくれました」「ぞうさんを歌ってくれました」などなど。曜日ごとにほぼ決まった人が来てくれるので、お互いに慣れるのも早かったそうです。

■利用者側にたったサービス

申し込んだらすぐ対応してくれたとのこと。この迅速さも本人やお母さんにとって嬉しいサービスです。市外にはいろいろと違ったサービス形態があることはご存じだそうですが、「何より“暖手”はうちに来てくれるから、ありがたいの」とおっしゃっていました。「自分の目の届く所で支援してもらえるのは本当に安心だから」。

■「利用券」と「交通券」

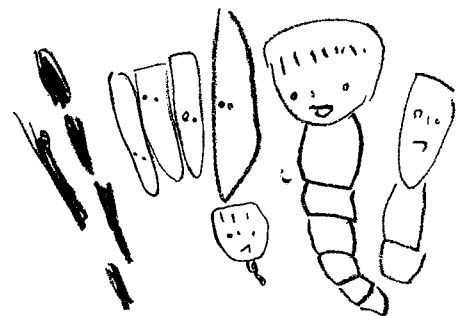
「利用券」を事前に購入し、利用ごとに渡すという方法だそうです。その他に介助者への交通費として「交通券」も必要です。けっして高額ではないけれど、頻度を考えるとやはり安ければ安い方がありがたい。「もっといろいろしてもらいたいけどね」と苦笑い。将来的にはショートステイも望みだそうです。

「暖手の人が来ると諒もわかるんですよ、もうにこにこしちゃって」と、うれしそうなお母さんでした。

(文責 川島ひばりが丘養護 担任記)

在宅支援グループ「暖手」

川越市山田 TEL 0492-24-5585



レスパイトサービスの利用(障害児・者生活サポート事業)

秩父地域には「ちちぶわくわくクラブ」という生活サポートをする団体があります。24時間利用できるので、多くの家庭で利用されています。

本人支援の場合「買い物やプールに行きたい」などの希望に対しては、同伴しての支援があり、家族支援では「冠婚葬祭のため」「旅行に行きたい」などに対して宿泊しての対応などさまざまです。

職員はみんなはつらつとして優しく、子どもたちの話し相手として親切に対応してくれます。この事業の利用を楽しみにしている子どもたちもたくさんいます。(文責 秩父養護 野口)

連絡先 『ちちぶわくわくクラブ』

秩父市山田559-7 TEL 0494-24-9961

ひとり暮らしに向けて — 日高養護 高2 遠山真一郎さんの場合 —

親
離
れ
体
験
入
居
タ
ク
シ
ー

■お母さんの将来設計

真一郎さんは身体だけでなく知的にも重い障害があります。生活費は、受けられる制度を利用し、介助者を入れながら一人暮らしをし、日中は通所施設にかよわせたいと考えています。

彼にはもう1人、同じ障害のある弟がいるので、お母さんにとっては真一郎さんが親離れをし、生活面でも自立できるかどうか切実な問題なのです。

■親離れに向けて

中学部からレスパイトサービスを利用しはじめ、そのうちに泊まりも利用するようになりました。同時にお母さんは真一郎君が自分でできることを一つでも多くなるようにと、トイレの合図、食事の挨拶などができるようにしてきました。

■生活ホーム体験入居

高2の8月に、上福岡障害者自立生活支援センター21運営の生活ホーム「みどり荘」で、介助者をケアシステム「二人三脚」にお願いし体験入居をしました。

コミュニケーションがうまくとれないので心配しましたが、本人も会議の場に参加し、みんなに様子を理解してもらうことで適切な支援をしてもらうことができました。

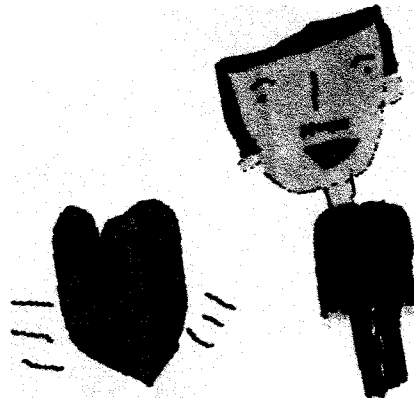
■タクシーを使って一人で登校

9月には、1人で車椅子乗車できるタクシーに乗って登校してきました。タクシーから車椅子のまま運転手さんに介助され降りてくる顔は自信に満ちていました。

今すぐ親離れは難しいのですが、将来スムーズにできるように在学中から一つ一つ取り組んでいます。

甘えん坊の顔は残しながらも、確実に「自信」が備わってきているようです。

(文責 日高養護 増田)



制度の紹介

・ホームヘルプサービス

障害児(者)のいる家庭や本人に対し訪問して、食事の介助や排泄、入浴補助などの身体介護、買い物や掃除などの家事援助、外出の時の介助などのサービスを提供してくれます。

・入浴サービス

身体障害者デイサービスセンター等での利用、もしくは巡回の入浴サービスがあります。

・ショートステイ(短期入所)

「緊急一時保護」から「短期入所」への名称変更にともない、レスパイト(家族の休養)としても利用できるようになりました。一週間以内を基本としますが、必要に応じて延長もできます。

・訪問看護

医師の診断に基づき、保健センターなどから看護婦が派遣されます。健康相談、指導、清拭等行ってくれます。相談窓口は保健センターなどです。

※利用の希望がある場合は、地域の福祉課もしくは児童相談所に相談して下さい。
収入による自己負担のある場合もあります。


…学校でのとりくみ…

学校では、現場実習や交流教育など様々な活動を通して、卒業後の進路を考えたり、在学中の生活を豊かにするよう取り組んでいます。そのようななかで子どもたちは大きく成長し、日々違った姿を見せてくれています。

その成果を卒業後の生活に生かせるようにするには、ご家庭での理解と協力は欠かせません。お子さんの成長を温かく見守っていただければと思います。

現場実習ってなーに？

☆現場実習（産業現場等における実習）



目的

- ・実習生活を通して、望ましい習慣や態度、対人関係を育てる。
- ・活動体験を通して、働くことの喜びや自覚と自信を培う。
- ・自分の進路や適性・能力について理解を深める。
- ・いつもと違う環境の中で、自分の力を発揮し成就感や成功感を実感する。
- ・障害のある生徒についての社会的理解を深める。

実習場所 公共施設・事業所・福祉施設等

現場実習は高等部における大きな教育活動ですが、生徒にとって学校と違う環境での自習は、日常生活での課題が見つかったり、卒業後の進路への意識が高まったりしています。また、保護者にとっても卒業後の生活をイメージすることができるようです。実習先でも、障害者への理解が進んだり、障害の重い生徒への関わり方が深まっていくこともあります。

会社での実習（反省会から）

本人

事務関係のたくさんの仕事をさせていただいてとてもうれしく思いました。これから学校などで、パソコンなどを使うときに役立てばいいなと思います。

実習先の担当者

今回は、いろんな仕事をお願いしたので、落ち着かなかったと思います。次回は決まった仕事を自分のペースでお願いしたいと思います。Aさんの可能性をいろんな場面で感じ取ったので、今後の成長が楽しみです。来年も是非きてください。

保護者

現場実習は、とても有意義だったと思います。本人もやりがいをもって仕事が出来ました。今回のように、最後まで努力できたら良いですね。

福祉施設（実習ノートより）

保護者

何も作業ができない娘が実習なんてと、不安や後悔の気持ちでいっぱいでした。でも、みなさんから温かい言葉がけをもらい作業にも参加できました。在宅は仕方がないと考えてもおりましたが、娘の表情を見て、やっぱり、子どもが通える場所が必要だと思いました。一日気持ち良くゆったり過ごせました。

実習先の担当者

今日は一日歌を口ずさんでいました。学校とは違う刺激があったのでしょうか。実習をしてみて不都合や苦痛があったとすれば、それらを訴えてもらい改善していかなければと思います。既存の環境に慣れるだけでなく、積極的に自分の生きる場所を作り出していくような姿勢で頑張ってください。

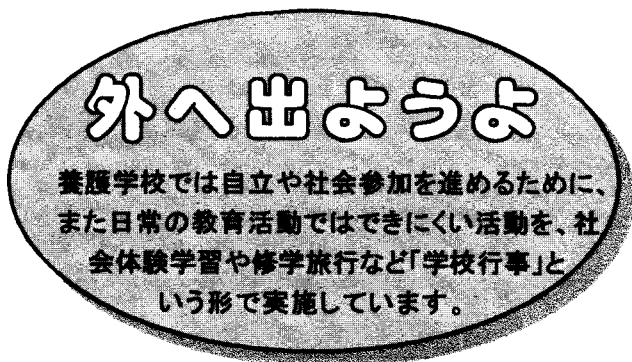
☆社会体験学習

電車やバスなどの公共交通機関を利用したり、デパート、レストランでの買い物学習や食事体験、公共施設等の利用などを通して、社会体験の幅を広げています。

☆修学旅行・宿泊学習など

養護学校では、小学部から修学旅行など宿泊を伴う行事を行っています。修学旅行では、文化や自然のすばらしさに触れ親しむことなどを主な目的としていますが、他の宿泊学習と同じように親元から離れ仲間とともに寝起きをすることで、子どもたちにとっては自立への一歩を踏み出すことができるようです。また、日常できにくい活動を通して、社会参加の方法も学んでいます。

保護者の方にとっては、家から離れての宿泊体験ということで、子どもの自立を実感することもあるのではないのでしょうか。



☆地域実習など

在学中から、自分の住んでいる市町村について理解を深めたり、福祉サービスなどの社会資源の利用の仕方を学んだり、ボランティアや同世代との関わり方を知ったりすることは大切なことです。

県内の養護学校の中には、「地域実習」として、取り組んでいるところもあります。

地域実習に参加した生徒・保護者の多くから、「参加して良かった」「良い体験ができた」「新しい発見ができた」などの感想が寄せられています。

(実際の活動例)

- ・社会福祉協議会や福祉課で、福祉制度についての学習をする
- ・ボランティアや同世代と一緒に活動をする
- ・公民館、図書館、福祉センターなどの公共施設を利用する
- ・レクリエーション的活動をする
- ・公共交通機関を利用する

この他、地区PTA活動として、レクリエーションや地域交流会などを行なっている学校もあります。



友達をたくさん

社会性や同世代との関わりを築くために、養護学校では交流教育に力を入れていきます。出会いの中で戸惑いもありますが、一緒に活動することで、お互いによりよい体験になるようです。

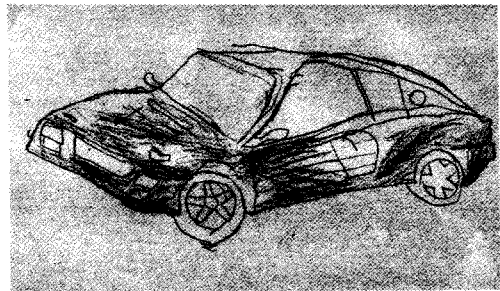
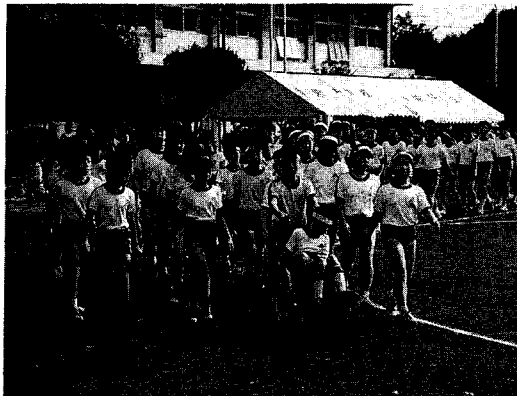
☆学校間交流

生徒会などを中心にして集団で訪問しあいレクレーションなどの行事をします。お互いに初めての出会いで緊張しながらも新しい関係をはぐむことができます。

■県立新座北高校との1日

朝からハイテンションのHくん、高校生がおしゃべりしていると「オレとしゃべれ！」と面白いっこみ。Yくんは食事介助してもらい、緊張しながらもニヤニヤ。トーキングエイドを手にとたくさん話していたS君は顔も体もゆるみっぱなし。K君はいつもと同じように爽やかでクールな笑顔を見せながら内心ドキドキワクワク。そんな男子たちをKさんは、「何ニヤニヤしているのよ！」って感じ。Hさんは一緒にインターネット。Mさんもしっかりメールアドレスの交換をしていました。Yさんも手をつないで一緒に歩いたり。ともかくみんないい表情をしていました。

(和光養護「学年だより」より)



☆居住地交流

居住している地域の小、中、高校へ定期的に通い、1日学級に入って学習します。

■交流学級の輪の中に

(和光養護 高1 須田和伸さんのお母さん)

交流学級では教科やグループ活動を通し、自分の思いや意見を発表することでクラスみんなに認められ、本人の自信にもつながったと思います。クラスメイトも交流を続けていく中で、「おばちゃん、今日遊びに行っていない？」から「須田くん、遊びに行っていない？」という会話が普通になってきました。道で会っても「ヨオ！」「オオ！」と声を掛けあうことができるようになりました。

親の思いで始まった居住地交流ですが、回数を重ねる中で、子ども同士の学び合う力に引っ張られて続いたように思います。親も懇談会などにも招いていただき、親子ともども楽しくみんなの輪の中にはいることができました。

■地域への一歩

(和光養護 小4 鹿沼諒さんのお母さん)

就学前から月2回の交流保育をやっており、健常児との関わりは年齢が低ければ低いほど自然にお互い受け入れられると感じていました。息子は、身体、知的にも重度であり自分から関わることは難しいので、最初は橋渡しをする大人が必要だと思います。

今年(99年度)は1回だけですが、お友達が家で話したらしく、いままであまりおつきあいのなかった方から声をかけていただきました。地域の子どもの意識の中に、諒の存在が明らかになったことは大きな1歩だと思い、とてもうれしく感じました。

息子の存在を地域の中に広めていき、将来の生活につながれたらと思います。

☆地域交流

学校のある地域のボランティアグループなどと学校との交流活動です。

熊谷養護学校では、周辺市町村の人たちと交流活動を行っています。その人たちが学校行事や授業に参加して、楽器の演奏を聴かせてくれたり、踊りを一緒に楽しんだりします。また、「先生」として授業をしてもらうこともあります。日常なかなか経験できない「本物」の演奏やダンスに触れることができます。

地域の人たちとの活動や触れ合いを通して、子どもたちは経験を広めたり、社会性を養うことにつながり、地域の人たちは養護学校や障害者に対する理解と認識を深めることができます。

主に「フラメンコ同好会」「陶芸家」「大正琴愛好家」「人形劇団」等の方々、また農家と稲作を通しての交流も行っています。

(文責 熊谷養護 松戸)

☆自主通学

養護学校では多くの生徒がスクールバスで通学しているため、家庭と学校という限られた生活空間だけの経験になってしまいがちです。そこで、公共交通機関を利用することに慣れたり、様々な経験や人との出会いのなかで成長することを願って、自主通学をすすめることもあります。

見守る側としてはハラハラすることもあります。あらゆる場面で自分で判断し決定することなどで、スクールバスでの通学では得られない、いわば“生活する力”を身につけることもできるようです。

自主通学を始めて

越谷養護 高3 根橋明男

僕がバス停までの自主通学を始めたのは、高3になってからです。先生からすすめられて始めました。それまでは家からスクールバス停まで車で送ってもらい、スクールバスで学校へという行程でしたが、バス停まで徒歩による自主通学を始めました。

重い荷物を持って大丈夫かな、遅刻せずにバスに乗れるかなと心配がありましたが、何日か通ううちに自信がついてきました。それに、毎日同じ人にあって楽しい気分になったり、その上体力もついてきました。

僕にとって自主通学は、自立するための第一歩、また一人で考え事をする時間、リフレッシュする時間(空間)と考えています。

ア
キ
ア
キ
な
ら
な
ら
自
主
通
学
!



施設紹介



～民間の手による福祉／障害の有無や年齢を問わない福祉～

民間福祉施設

「元気な亀さん」「陽気な鶴さん」

施設長 瀧本信吉さん

〒350-0257 埼玉県坂戸市小山83-1

TEL 0492-89-1660

入所および日帰りの当施設は、収容・隔離・管理・拘束を否定し、幼児からお年寄りまでが障害の有無を問わず一緒に生活する家族的かつ開放的な施設です。

お年寄と関わることで子供たちに思いやりの心が育つ、多動の子供は落ち着きが出てくる、お年寄りは子供たちに元気をもらう、そんなお互いの相乗効果があることもこの施設ならではのものです。

世話をする・されるではなく、皆と一緒に活動することが一人一人の出番を作り、力を伸ばすことにつながるということで、生活の中でリハビリを行い、体験を通して子供たちを育てています。

幼児からお年寄りまでのふれあい家族、それが「元気な亀さん」「陽気な鶴さん」です。

サービス内容

- 入所、日帰り施設…「元気な亀さん」「陽気な鶴さん」
- 玄関までの送迎、24時間保育(0～6才対象) …「そんごう」
- 有障児の学童保育…「金星組」
- 有障者自立センター…「明日は晴れ」
- ショートステイ ○家事代行 ○在宅介護 ○介護用品販売・宅配



トピックス

障害者生活支援センター(身体障害者相談支援事業)

保健福祉圏域(当面人口30万人に2ヶ所の予定)の中に障害者の地域生活を支援するセンターとして設置されます。利用対象者は、地域において生活支援を必要とする障害のある人やその家族です。

県内では、東松山市・浦和市・川口市など9カ所に設置されています。

障害者生活支援センター

「ともいき」

- (1) ホームヘルパー、デイサービス、ショートステイ等の利用援助やサービス情報の提供、利用の助言、介護相談、利用申請の援助等
- (2) 社会資源を活用するための支援(・授産施設や作業所等の紹介・福祉機器の利用の助言・外出の援助・住宅改修の助言)
- (3) 社会生活力を高めるための支援(社会生活力プログラムの実施等)
- (4) 当事者相談(ピアカウンセリング)
- (5) 専門機関の紹介

連絡先 〒350-1175 川越市笠幡1646-17

TEL 0492(39)3688

障害(主に身体障害)のある人たちのための施設等一覧

種 別	内 容
1 ○肢体不自由者更生施設(入所) 埼玉県総合リハビリテーションセンター(上尾) 国立身体障害者リハビリテーションセンター(所沢)	・肢体不自由者に対して医学的治療訓練、職能訓練及び生活指導を行います。(入所期間は1年が原則) [視覚、聴覚、言語障害、内部障害者更生施設もある]
2 ○重度身体障害者更生授産施設 埼玉県総合リハビリテーションセンター (入所)	・重度肢体不自由者に対して、家庭復帰に必要な日常生活能力の回復に重点をおいて、各種のリハビリテーションを行う。
3 ○身体障害者療護施設(入所)	・常時介護を要する重度身体障害者が入所し、医学的管理のもとに、必要な介護を行う。 (利用者18歳以上、定員50人以上)
4 ○身体障害者授産施設(入所、通所) 埼玉県身体障害者共同作業所など	・身体障害者で、就職の困難な方に、必要な訓練を行うと共に仕事を与えて自活できるようにする。最終的には一般事業所などへの就職若しくは、自営業で自活できるようにすることを目的としている。 (利用者18歳以上、通所は20名以上、入所は50名以上の定員)
5 ○重度身体障害者授産施設 おさか向陽園など(入所、通所)	・重度身体障害者で、就職の困難な方が入所し、必要な訓練を行うと共に仕事を与えて自活できるようにする。(利用者18歳以上、通所は20名以上、入所は50名以上の定員)
6 ○身体障害者通所授産施設 おさか向陽園など	・身体障害者で、就職の困難な方に対して、通所で仕事を与えて自活できるようにする。 (18歳以上、定員20名以上)
7 ○身体障害者福祉工場 身体障害者新産福祉工場	・作業能力があっても通勤事情等のため、一般の企業に就職することが困難な重度障害者のための工場。(雇用保険等適用)
8 ○知的障害者更生施設(入所、通所)	・知的障害者が入所(通所)し、その更生に必要な指導訓練を行う。(利用者18歳以上、通所は20名以上、入所は50名以上の定員)
9 ○知的障害者授産施設(入所、通所)	・知的障害者が入所(通所)し、自立に必要な訓練及び職業訓練を行う。(利用者18歳以上、通所は20名以上、入所は50名以上の定員)
10 ○心身障害者地域デイケア施設	・在宅の障害者の社会参加促進のため、身近な地域で通所により必要な自立訓練及び授産活動の場を提供することで社会参加の助長を計ることを目的としている。 [県の条例による無認可の施設で、6人から19人が利用]
11 ○身体障害者福祉センター(A型) 埼玉県障害者交流センター	・身体障害者の各種相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上、スポーツ、レクリエーションなどの便宜を提供する。
12 ○身体障害者福祉センター(B型) 市町村で設置	・無料または低額な料金で機能訓練、創作活動、社会との交流、レクリエーション活動などの場を提供する施設。
13 ○身体障害者デイ・サービス センター	・外出や就労の機会が得られない在宅重度障害者に対して、創作的な活動、機能回復訓練、入浴や給食サービスなど行っている。
14 ○障害者更生センター 埼玉県伊豆湖風館	・障害者、家族、ボランティア等が気軽に宿泊、休養するための施設。
15 ○生活ホーム(県) ○グループホーム(国)	・住宅事情等で、自立した生活ができてにくい障害者に住宅の場を提供するとともに、生活面での援助等を行い地域生活を助長することを目的にする。 [4人から9人が利用、専従世話人がつく。身体障害者も利用可能]
16 ○重症心身障害児施設 光の家、県立嵐山園、太陽の園、東埼玉病院、中川の郷	・重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している児童(18歳以下)が入所し、治療及び日常生活の指導をする。医療法に定める病院としての施設が必要。通所の事業もある。
17 ○肢体不自由児施設(入所) 埼玉県青園	・上肢、下肢または体幹の機能の障害のある児童(18歳以下)を治療するとともに、独立に必要な知識技能を与える。

埼玉県内肢体不自由養護学校6校 高等部卒業生の進路状況

年 度	1 9 9 7	1 9 9 8	1 9 9 9
就 労	2	4	1
訓 練	2	1	2
福 祉 法 施 設	3 1	3 2	2 7
地 域 デ イ ケ ア	2 5	1 8	3 1
進 学	0	1	0
在 宅	9	5	9
計	6 9	6 1	7 0

[就労] 公務員、一般企業など

[訓練] 国立職業リハ、職業能力開発校など

[福祉法施設] 身体障害者福祉法等による療護、授産、更生施設（含県リハ）など

[地域デイケア] 県条例による無認可小規模施設（定員6名から19名）

[進学] 大学、専門学校など

[在宅] 施設入所待機、自宅療養、家事手伝いなど

あとがき

■高進研障害児教育部会の肢体不自由養護学校小委員会は、今年度開校した川島ひばりが丘養護学校と複合化が始まった秩父養護学校を加え8校で構成しています。その進路担当者が協力して、今年度は「“いま”をゆたかに」をテーマに「進路のしおり」第8号を発行することになりました。

進路指導は、全教育活動を通して生きる力を育てる指導です。卒業後をゆたかに生きるためには、一人一人の児童生徒が、いまを楽しく充実したゆたかな生活を送ることが大切です。

そのために、一人一人の児童生徒は、今、家庭ではどのように、また学校でどのような生きる力を育てていかなければならないのでしょうか。この「進路のしおり」を御活用いただき、今できること、今やらなければいけないこと等を考える参考にしていただきたいと思います。

（埼玉県立越谷養護学校長 森山 毅喜）

■21世紀を迎えて、省庁再編成による厚生・労働省の統合など福祉をとりまく環境も変化しつつあります。また、特殊教育の在り方についても検討が行われ、養護学校も時代の要請の中で、変化が求められています。

このような目まぐるしい変化の中にあっても、子どもたちはしっかりと自分を見つめ、豊かな明日を目指して行って欲しいと願っています。

最後になりましたが、多くの方々の御協力を深く感謝します。

（編集委員 宇都木）

「進路のしおり」第8号

発行日 2001年3月15日

協賛 埼玉県肢体不自由養護学校校長会

編集・発行

◇埼玉県高等学校進路指導研究会障害児教育部会
・肢体不自由養護学校小委員会

◇埼玉県肢体不自由養護学校進路指導研究会

宇都木 章 県立越谷養護学校
0489-75-2111
黒古 次男 県立和光養護学校
048-465-9770
磯 輝一 県立宮代養護学校
0480-35-2432
増田 美鈴 県立日高養護学校
0429-85-4391
矢島 健作 県立川島ひばりが丘養護学校
0492-97-7753
船戸 浩二 県立熊谷養護学校
048-532-3689
野口 健一 県立秩父養護学校
0494-24-1361
壺井 健治 大宮市立養護学校
048-622-5631

表紙絵・カットは各校の児童・生徒の皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

印刷所

「そめい写植舎印刷」

〒366-0811 埼玉県深谷市人見431

TEL・FAX 048-572-8775